

令和5年7月16日
<佐々木 朗JH8CBH>

電波教室を実施して
～現実の厳しさを見せつけられながらも子どもたちの笑顔に励まされて～

1 小さなローカル局の思いからスタート

「CBHさん、ラジオ教室そろそろやりませんか。」懇意にしているローカル局からのお誘いから、話が始まりました。6月6日のことでした。。夏休み前に実施するなら、一日も早くだんごりを組まなければなりません。その日の夕刻、いわゆる「言い出しっぺ」の二人と私で望洋塾で作戦会議を開きました。

対象とする子どもたちは、この地域の子。地元の会館を借りましょう。という基本線で、私が事務仕事を中心に、あとのお二人が、ボランティアを集めるというざっくりとした役割分担をしました。

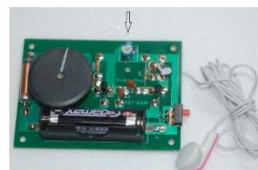
私は現在北海道地区の電波適正利用推進員を務めており、同協議会が主催する電波教室の一環として行くと、ラジオを無償で提供してもらえるとというのもありました。

さっそく、同協議会に連絡を取り、ラジオを確保し、また、JARL渡島檜山支部ともPRや道具などの借用ついでの話を進めました。

一方インストラクターの方ですが、実は、3年前まで、青少年のための科学の祭典の中で、JARL渡島檜山支部として、「ラジオ作りブース」を出していること、ま

た、私が前に勤めていた厚沢部町でも、電波教室を実施したことから、結構思い浮かぶメンバーはいました。さらに、日頃無線に出ているメンバーもいて、結構な人数の方が協力してくれることになりました。日当や交通費など全く出ることのない中、子どもたちにラジオ作りの楽しさを教えたい。ラジオが鳴った時の子どもたちの笑顔がみたい、という思いで駆けつけて下さった皆さんには、ただただ感謝の思い出いっぱいです。

子どもたちのための
ラジオ作り教室
先着 10 名程度
7月15日(土) 午前10時 望洋団地自治会館



こんなことが楽しい

- ★ はんだごてを使って自分でラジオを作ります。自分の作ったラジオから音が出た瞬間は感激ですよ。
- ★ 電気に詳しい先生が、じっくり教えてくれます。
- ★ 作ったラジオはそのまま持ち帰ることができます。

主催 北海道電波適正利用推進協議会
主管 望洋団地ラジオ作り実行委員会

対象 銭亀沢小学校・中学校に通う児童・生徒
参加費 100円(保険料)
指導者 佐々木 朗 他 ボランティア



申し込み・照会先: 佐々木 朗 銭亀沢 210-13(A地区児童公園近く、大きな無線のアンテナが目印です)
090-8277-9744

参加を希望する児童・生徒の保護者は、7月8日(土)まで、下記の申込書に必要事項を記入の上、保険料100円を添えて、A団地佐々木まで申し込んでください。先着順にお受けいたします。尚、大幅に人数が増えるような場合は、午後の部も行うことも考慮いたします。

参加者氏名	銭亀沢() 学校	年	保護者氏名
ご住所	連絡先電話番号		

一方、私の方ですが、学校を通して、文書を配布すれば、まあ、順調に人は集まるであろうと高を括(くく)っていました。市教委に行き、そして地元の小学校、中学校の教頭先生、校長先生に配布依頼に行きました。なぜかどちらの校長先生も旧知の仲。「怪しい組織ではないか。」という警戒は、とりあえず解いてもらえて、チラシを配布して下さることになりました。

学校からチラシが配布された日、さあ、どれだけ来るか、と思っていたところ、0、次の日が1名、しばらくしてもう1名。「エッ!? どういうことなんだろう。」初日を逃すと、あとはほとんど「ない」という実体験はありますので、すぐに危機感を覚えました。対象を小中学生から、高校生大学生、青少年、そして、ラジオ作りに興味のある大人も含めて、募集することに見直し、もう一度地域全体にチラシを配りました。2名ほどきました。この時点で5名。インストラクターの方は11名。自分としては相当焦ってきました。500枚に一枚ヒットすると信じているチラシ作戦で、自分の地域の団地以外にも、近隣に1000枚以上の戸別配布をしました。この頃はお昼から毎日チラシまきをやっていました。一日2万歩をめどに動きました。ところが、全く電話は鳴りません。この頃は夜もぐっすり眠られない。胃が痛い、そんな日々でした。

最後の手段として、神頼みならぬ、新聞頼みで、北海道新聞にお願いに行きました。幸いにも、地方版で呼びかけてくれる配慮をいただきました。「どれだけ申込が来るかな。新聞に載ったからにはたくさん申し込みが合って、午後の部も

考えなければならぬかなあ。」とやっと気持ち的に安堵していました。募集の記事は、本番5日前の月曜日の夕刊に掲載されました。夕方近く電話が来ました。2家族、3名の申し込みを受けることができました。後にも先にも、これ以外の電話はありませんでした。またまた、現実の厳しさを知ったわけです。

この時点で8名。参加者数よりインストラクターの方が多い状態は解消されていません。でも、指導の分担を工夫するなどしてやりくりすることを考えていました。そんなことを考えているうちに、直前に申込が相次ぎ、最終的には、ボランティアより参加者の人数が上回り、大人の参加者は、人のインストラクターが複数で対応することで乗り切ることになりました。

ラジオ作り
15日に教室
道電波適正利用推進協
北海道電波適正利用推進
協議会は15日午前10時か
ら、小学生以上の青少年を
対象にラジオ作り教室を望
洋団地自治会館(銭亀町2
277・9744へ。
10)で開く。
対象は小学生以上。北海
道電波適正利用推進員の佐
々木朗さんが講師とな
り、電波利用に関わるビデ
オの視聴後、ラジオを作る。
参加無料。
申し込みは13日までに佐
々木さん、電話090・8
277・9744へ。

2 電波教室当日

7月15日は、前の日からの予報が見事に当たり、「雨」。それにもかかわらず、ボランティアさんは開始1時間前の9時よりずいぶん早く集まってもらうことができました。細かい準備をしているとあっという間に10時が近づいてきました。「とにかく

事故のないよう、楽しみながら指導していきましょう。」ということで、参加者を受け入れました。

誰がどの子を担当するかは事前に決めていたので、ラジオ作りの前のビデオの時なども、コミュニケーションをとることもができ、その上で製作には入れたのは良かったと思います。

今回は、「ラジオがなぜ聞こえるのか」というプレゼンテーションも新たに取り入れ、



インストラクターの一人に説明していただきました。

いよいよ製作開始です。私は全体の責任者でしたので、指導には直接入らず、随時回って、子どもたちやインストラクターに声をかけていました。

主催者挨拶

みなさん、おはようございます。本日は、悪天候の中にも関わらず、電波適正利用推進協議会主催の電波教室にご参加いただき、心より感謝申し上げます。電波適正利用推進協議会は、今から27年前の平成9年に創設され、国民の皆様の国民生活や経済活動により多くの恩恵をもたらされるよう、正しい電波の使い方を周知啓発していく使命を担っております。

難しいお話はさておいて、今日は子どもたちもたくさん来ていただいていることから、電波のお話をしたいと思います。さて、皆さんの周りで、電波はどんなことに使われているでしょうか。皆さんの家にも、電波を利用した物が必ずといっていいほどあります。テレビ、ラジオ、ケータイ電話、WIFI などがありますでしょう。玄関のチャイムやコードレス電話などもそうですね。社会の中では、パトカー、救急車、タクシーをはじめ、車に無線機がついているものがたくさんあります。私が楽しんでいるアマチュア無線も電波を使います。家では九州沖縄や外国とも交信ができるんですよ。

さて、このように電波は私たちの暮らしと切り離せないものになっています。テレビもラジオもケータイも全て使えないなどになったら生活が成り立たなくなってしまいますね。ですから、誰もが安心して電波を利用できるようルールを守っていかなければなりません。電波は、上にも下にも右にも左にも飛んでいきます。きちんと許可された無線機ではない悪質のものを使うと、周りの家のテレビが映らなくなったり、WIFI がつながらなくなったり、ひどいときにはパトカーや救急車の無線を妨害して、人の命にかかわることにもなってしまいます。正しい電波の使い方、正しい無線機の使い方が大切です。

今日は、電波ってどんなものだろう、見えないのに声が聞こえるのはどうしてだろうという疑問を、ビデオやラジオ製作を通して、わかってもらえればなあと思います。そして、電波を正しく使っていくことの大切さも学んでもらえれば幸いです。

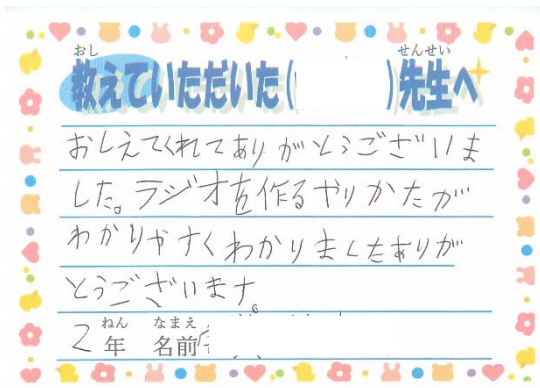
最後になりますが、ラジオ作りのために本日集まっていたいただいた10名のボランティアスタッフの皆さん、今回の企画運営に協力いただきました日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部長様に心より、感謝を申し上げ、主催者のご挨拶とさせていただきます。

北海道電波適正利用推進員 佐々木 朗

多くの子どもたちにとって半田付けは初めての経験。そして、ちょっと触ればやけどにつながるとても危険なもの。インストラクターへの事前指導で、「半田ごての正しい使い方を、がっちり指導してから、ラジオ作りに入って下さい。」と申し上げた通り、慎重に子どもたちも半田ごてを握

り、子どもたちのやけどは皆無でした。

30分位経って、完成第1号。なんと最年少の小学校1年生の女の子でした。ラジオが鳴ったこと、それと周りのお兄ちゃん、お姉ちゃん、そして、昔のお兄ちゃんたちよりも早くできて、大喜び。ダイヤルを回しながら、ラジオが聞こえた感動に浸っていました。



そうしていると、あちらこちらから、「聞こえた。」「できた。」という声が上がってきます。この時が「苦労したけれどやってよかったなあ。」と思える瞬間です。

もうしばらくすると、何人かちよっと顔色の冴えない表情の子どもたちが出てきます。そうです。周りの人が次々に完成していくのに、まだできない。スイッチを入れたけれど、音が鳴らないという子どもたちです。実は大人もいました。

子どもたちも不安になりますが、その子を指導したインストラクターも不安になります。「間違っただけで教えたかしら。」そこは、ベテラン集団。慣れた方が見ると、だいたい目視で、怪しいところがわかります。今回もトランジスタの向きとイモ半田(たくさん半田が乗っていても実は、付いていない)が原因でした。1時間半ほどで、お預かりの事後処理というのは今回はなしで、全員完成したラジオを持ち帰ること

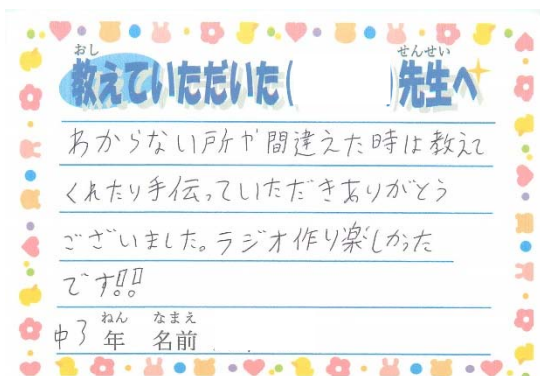
ができました。

3 反省会

子どもたちが全員帰ってから、車座になって反省会を行いました。部品の番号が小さい、プリント基板の穴が小さいというぼやきが聞こえましたが、さすがにこれはどうしようもありません。拡大鏡や虫眼鏡で対応していただくしかありません。

それと、根本的な部分になりますが、子どもたちにとって「ラジオ」って身近なものなのだろうかということでした。「ラジオはほとんど聞かない。」という子どもたちだとすれば、「ラジオを作りましょう。」と行っても、行く気にはなかなかないと思うというのが大方の意見でした。作ってみれば、今日、この電波教室に参加してみれば、「ラジオ作りって面白い。」は感じてもらえるわけですが、その前段階の「来てもらえるか。」というところに大きな課題があることが、身に染みて今回の事業の参加募集の状況からもわかりました。

次はどんな作戦で、いつ実施するかは、全く未定です。でもインストラクターの顔からは「またやりたいな。」という表情が見て取れます。



今の私は、やり切った満足感がある一方、参加者を集めるということで、今まで

で最も苦勞した事業の一つとして思い出に残ることでしょう。

人は経験から学びます。今回学んだことを次にどう生かして、新しい企画を立てていくか、頭の中で楽しみながら、来るべき時に動ける準備をしたいと思います。

家に戻り、借りた物、書類の整理、報告書、やれるものは全てやって、借りた物はその日のうちに送りました。

しばらく頭を休めながら、「次、何やっかなあ」とまた、新しいことを考えられたらなあと思います。

4 感謝

一つの事業を実施していくには、たくさんの方の協力が必要です。今回も、電波適正利用推進協議会のご協力、JARL渡島檜山支部の周知活動や道具貸し出しのご協力、地元の銭亀沢小学校、銭亀沢中学校の案内配布のご協力、地元の会館を無償で快く貸し出してくれた地元望洋団地自治会の協力、新聞掲載

を快く受けて下さった北海道新聞の協力、そして、何よりも、子どもたちのために時間とエネルギーを注いでくださったボランティアインストラクターの皆さん、その他、お世話になった皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

5 最後に

「地域で子どもたちを育てる。」これは、長年教職に携わって、痛感したことであります。学校でできることと、地域がやるべきこと、また地域だからこそできることもあります。

また、物づくりの楽しさ、子どもたちの科学への興味、特に私の専門としている電波の不思議さ、面白さ、便利さについて、伝えることができればと思いました。

「次の世代を育てる。」これは全ての組織に通じます。私は、これからもアマチュア無線を中心に、普及、発展活動に努めて参りたいと思います。

令和5年7月16日 佐々木 朗



